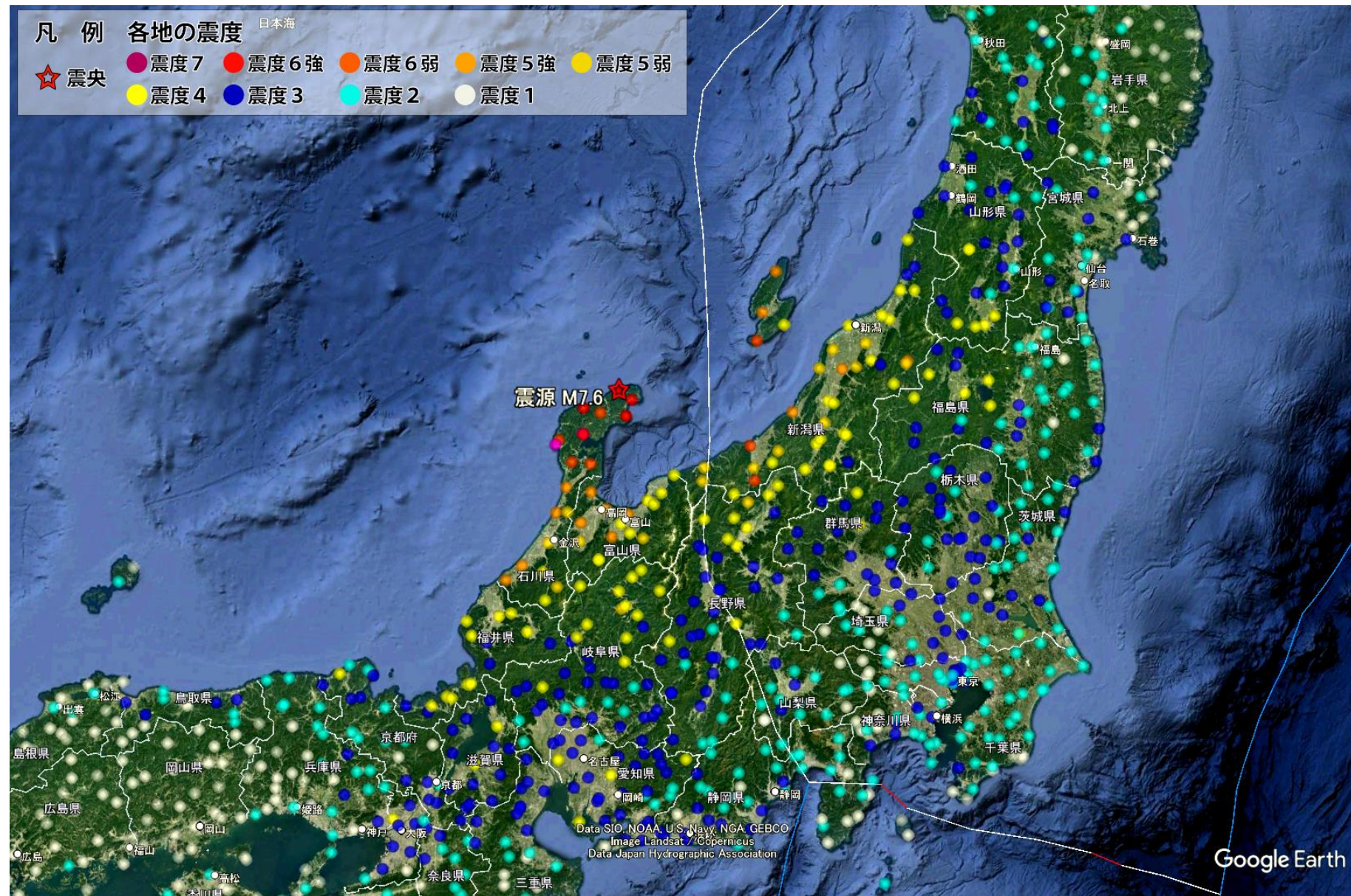
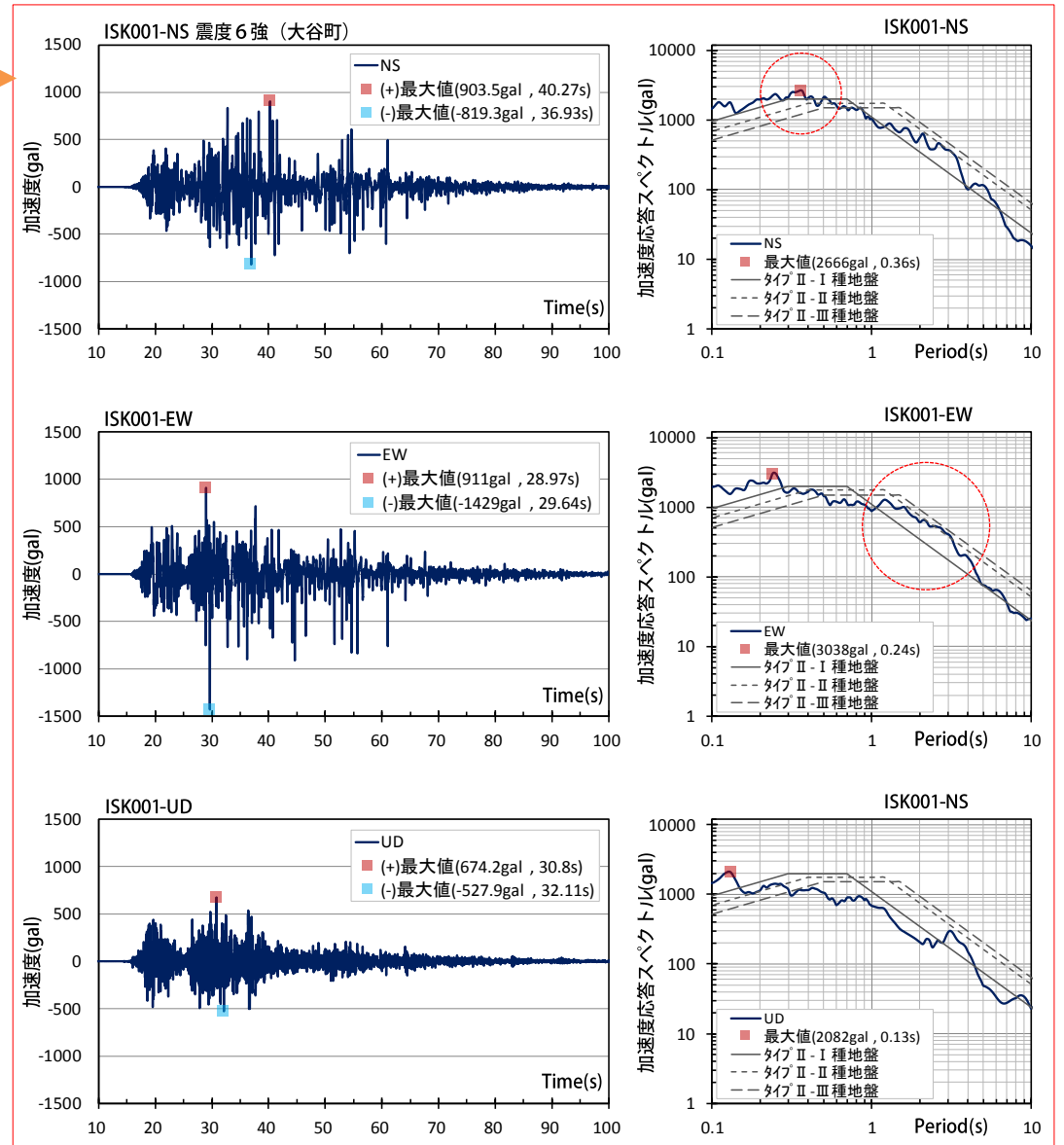
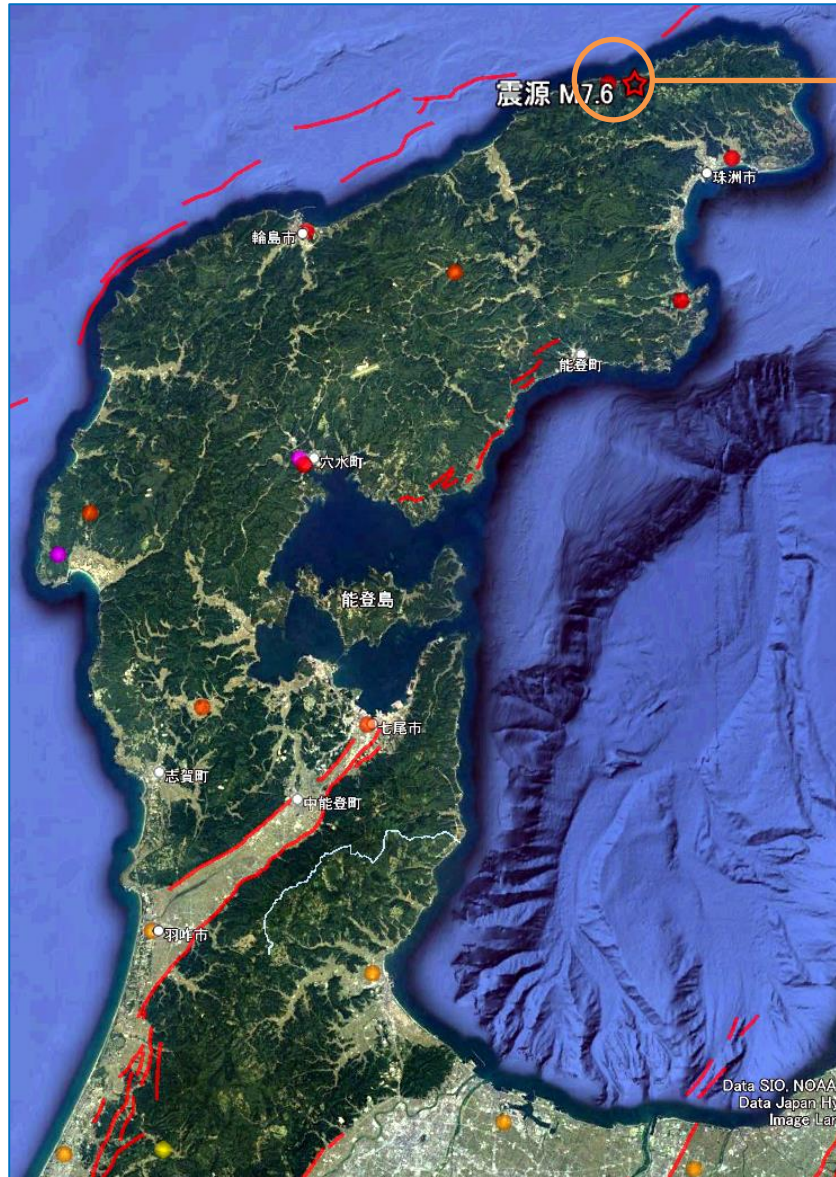
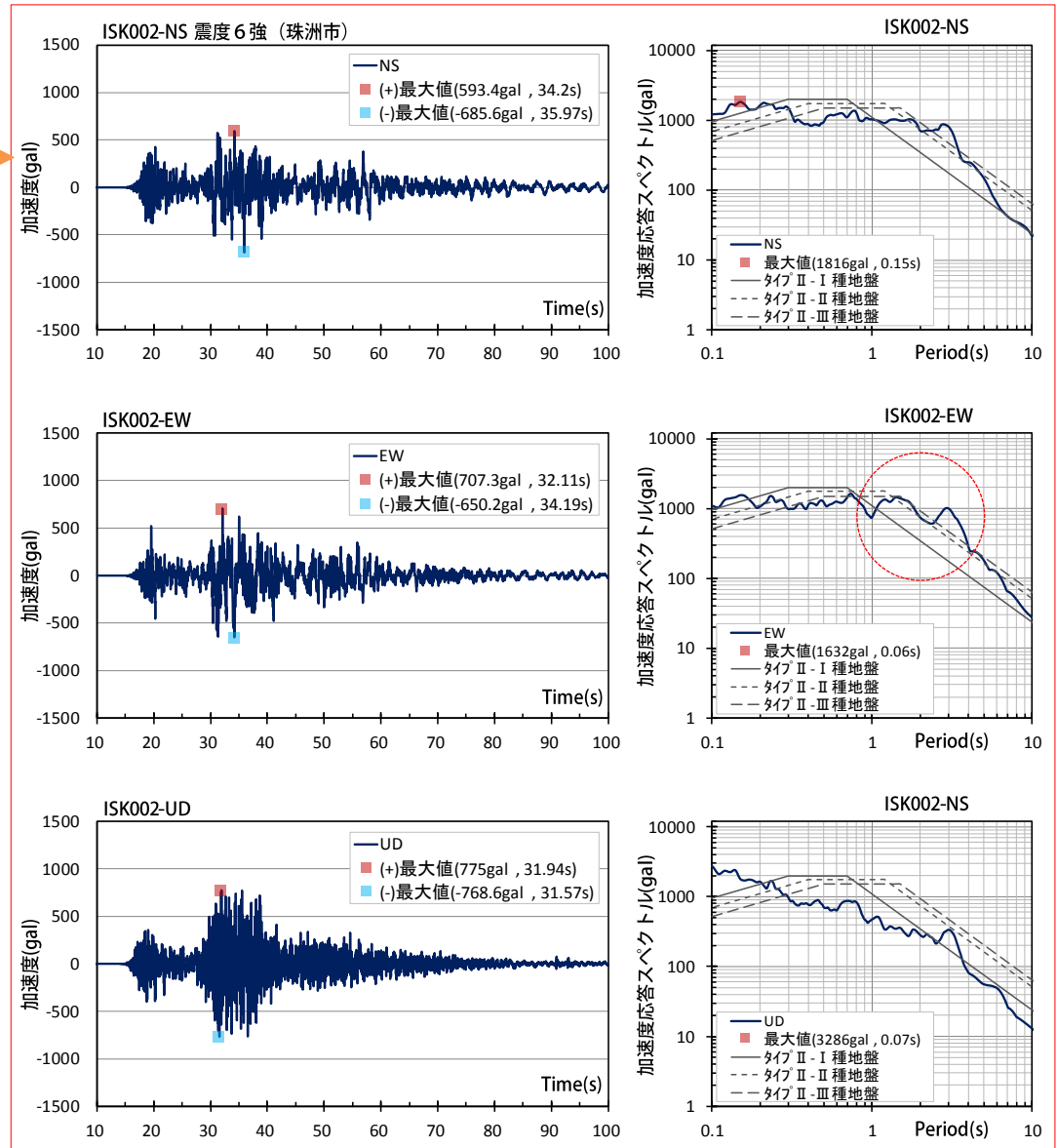
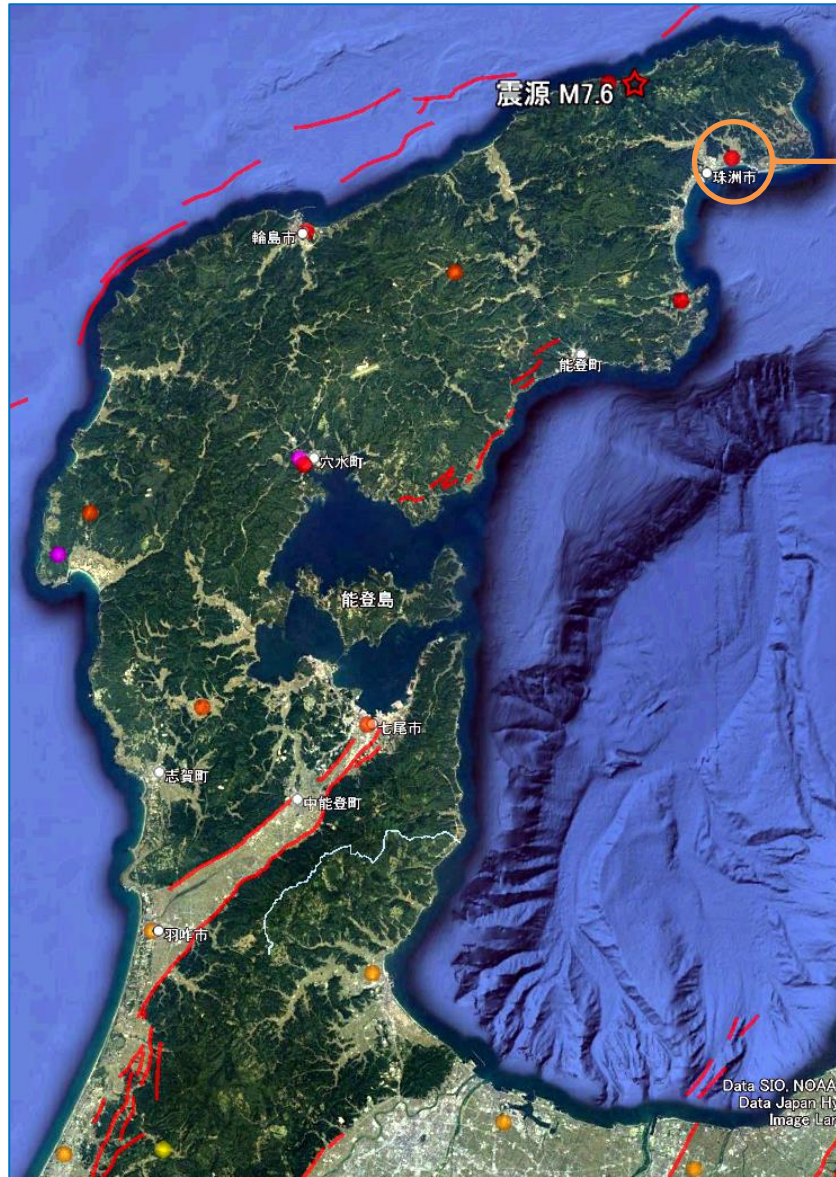


令和6年能登半島地震の地震動波形 (2024年01月01日16時10分頃, 震源深さ16km, マグニチュード7.6)

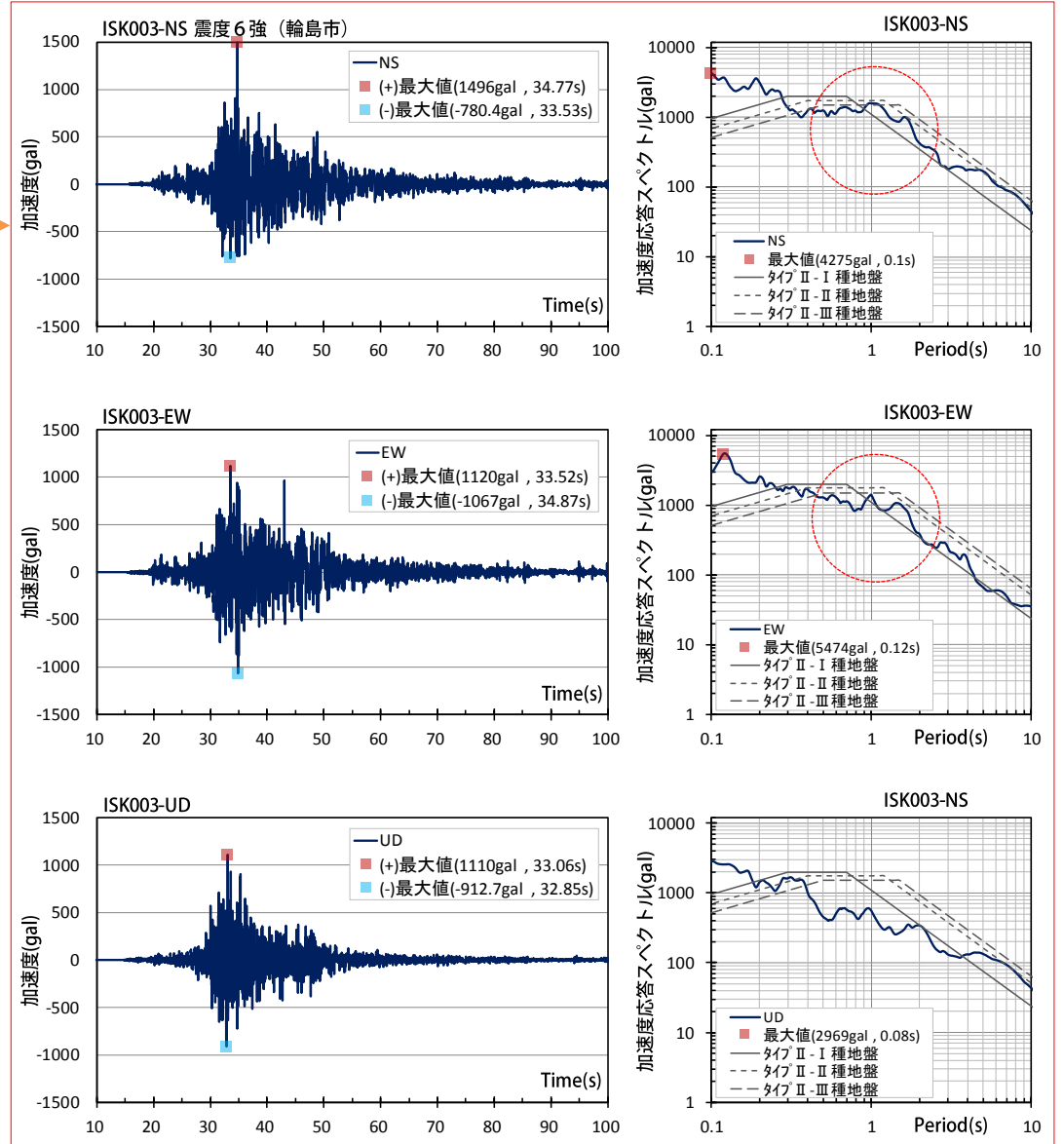
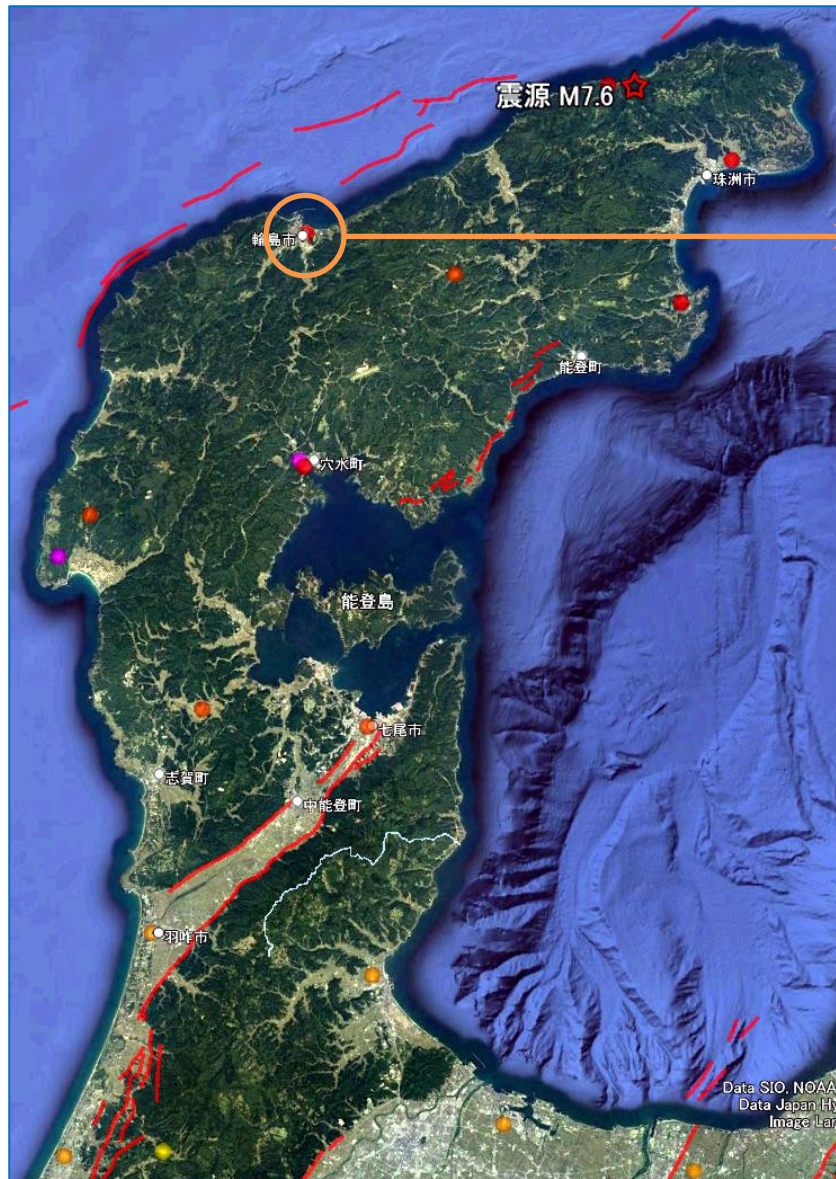




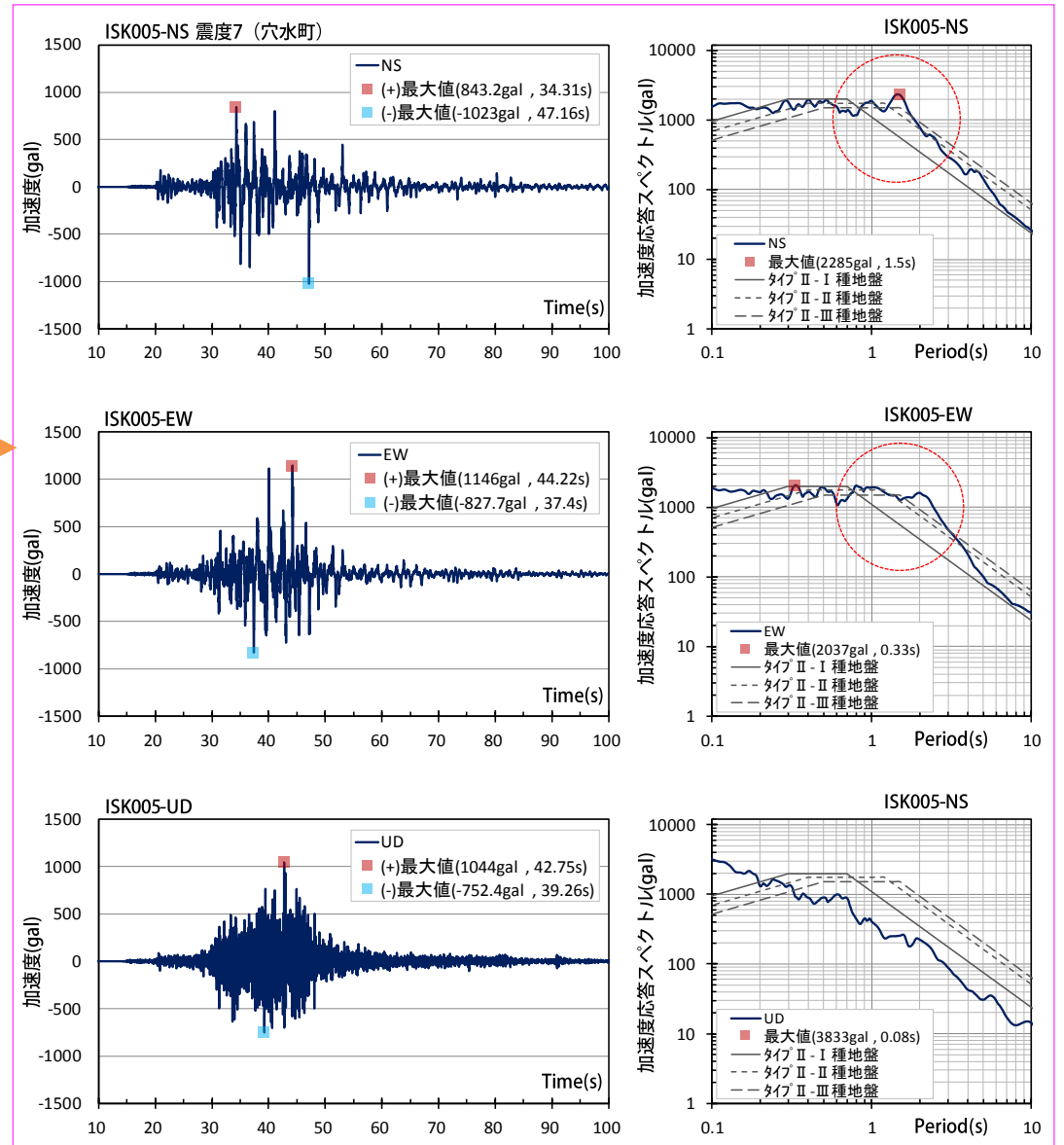
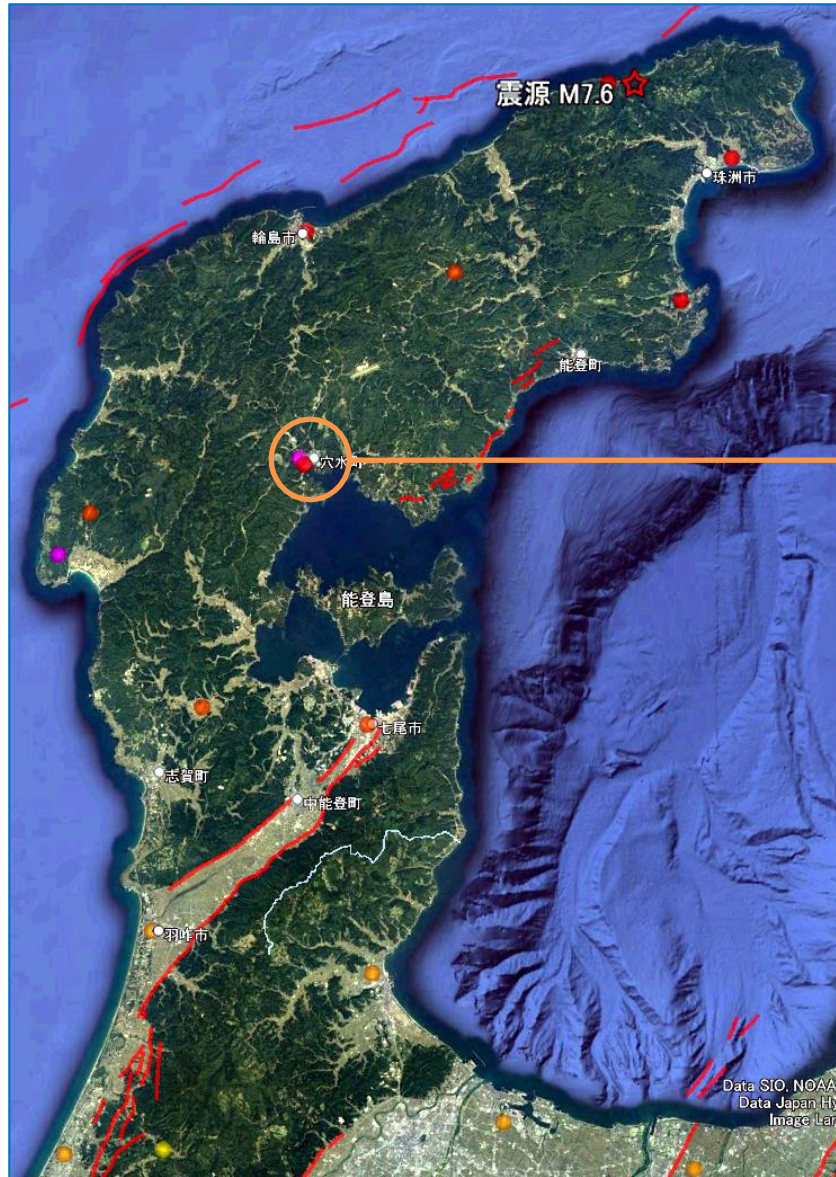
K-NET 大谷 (ISK001) の加速度応答スペクトル (5%減衰) では 0.2 秒~0.4 秒の短周期成分が大きく道路示方書のタイプ II 標準波形を超過してる。また、1 秒~4 秒のやや短周期とやや長周期成分も大きく卓越していることが確認できる。



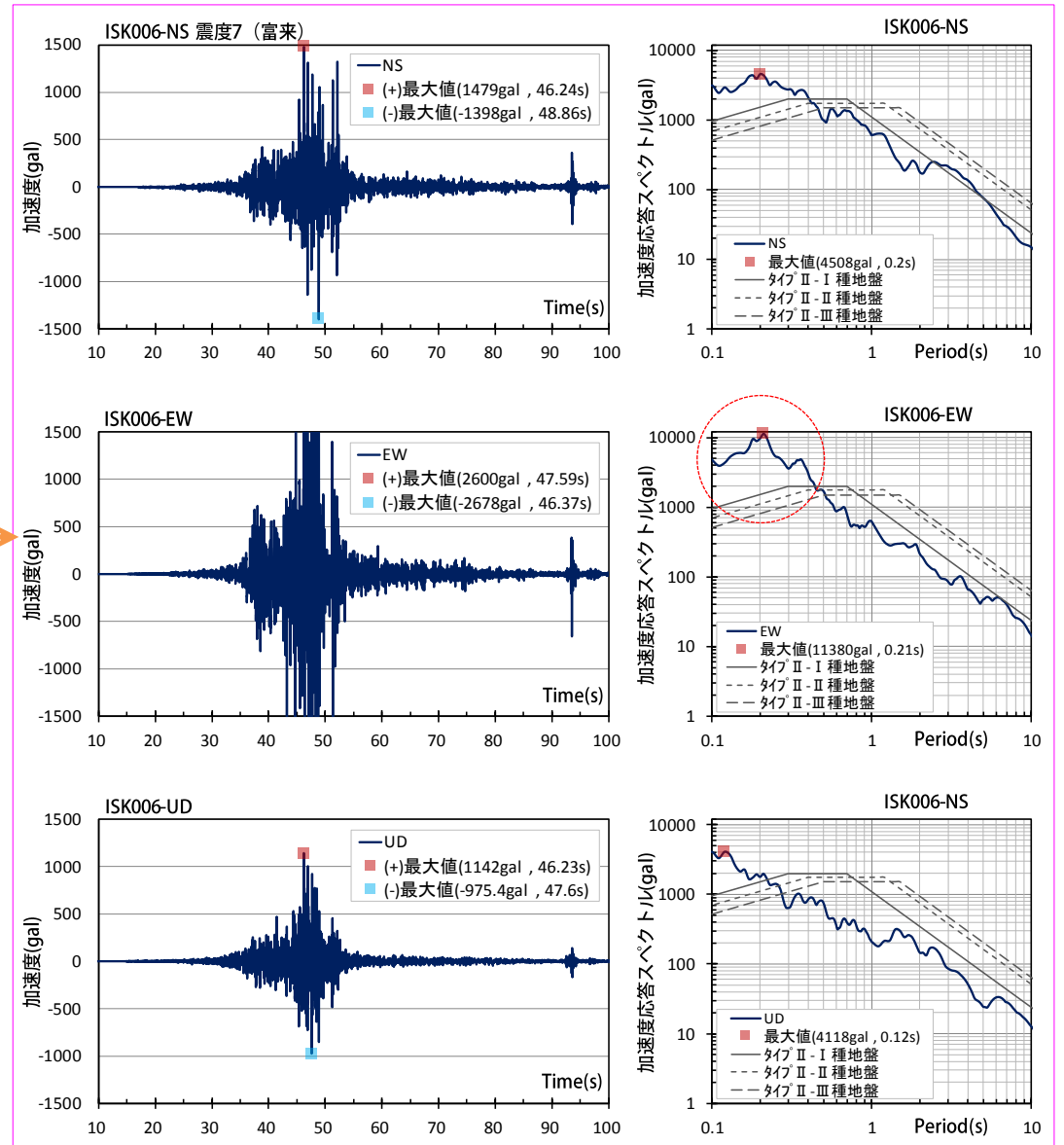
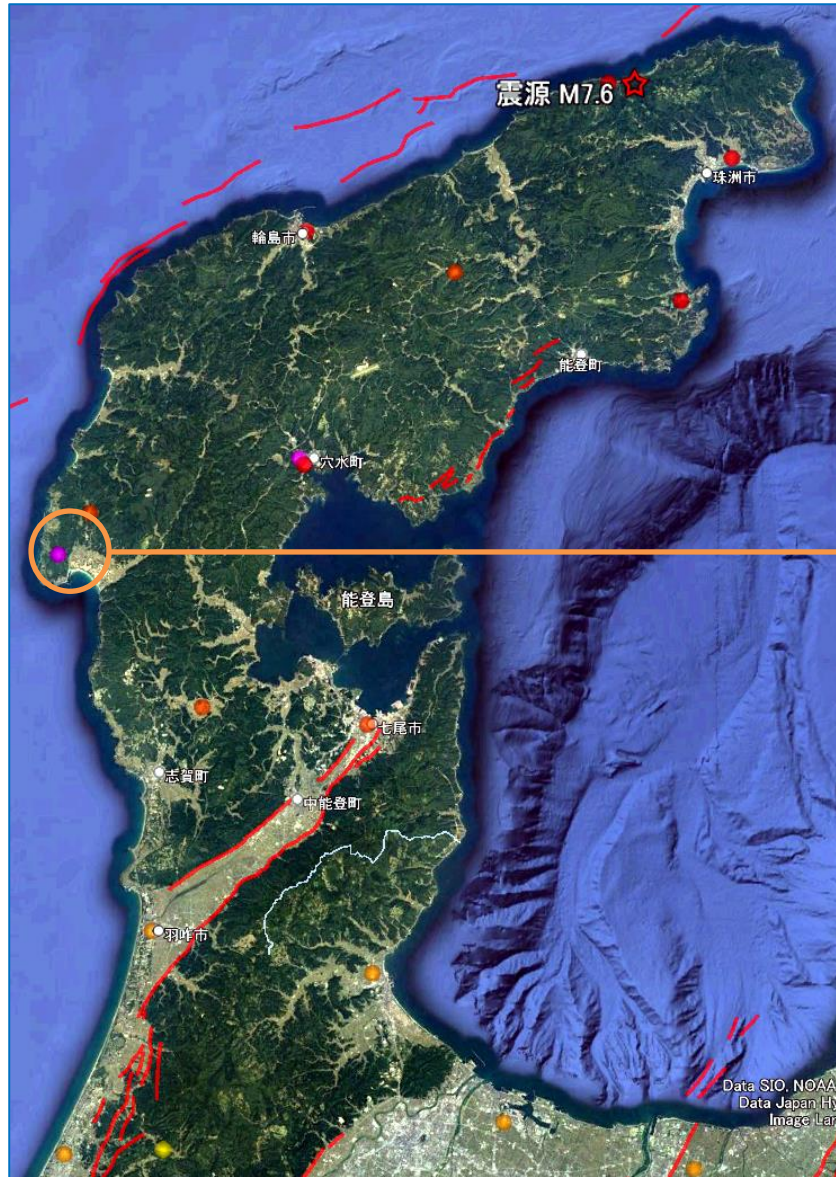
K-NET 正院 (ISK002) の加速度応答スペクトル (5%減衰) では、短周期成分とやや長周期成分も含む 0.1 秒～4 秒の加速度応答値は 1000gal 前後となり、3 秒前後のやや長周期成分は道路示方書のタイプ II 標準波形を大きく超過していることが確認できる。



K-NET 輪島 (ISK003) の加速度応答スペクトル (5%減衰) では、キラーパルスに該当する周期 1 秒~2 秒付近の加速度応答値が大きく 1000gal 以上。



震度7を観測した K-NET 穴水 (ISK005) の加速度応答スペクトル (5%減衰) は、キラーパルスに該当する周期1秒~2秒付近の加速度応答値が大きく卓越し、最大2000galを超えている。



震度7を観測した K-NET 富来 (ISK006) の加速度応答スペクトル (5%減衰) は、短周期成分が圧倒的大きい、最大 11380gal の最大応答値が EW 成分で発生している。恐らく硬い地盤 (岩盤) による影響が大きいと考える。